



専用の道具で金属に模様を施す彫金は、江戸から明治にかけて隆盛を極めた工芸技能。その技術を現代に受け継ぐ一人が、取手市在住の坂有利子さんです。

多彩な作品を生む
女性職人

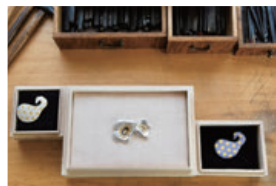
工房を兼ねたご自宅を訪ねると、見たことのない道具の数々が目に飛び込んできました。中でも金属を削るのに用いる「たがね」は、坂さんいわく「微妙な形の違いによって、描ける模様が変わるんです。先輩職人から頂いたものや骨董市で手に入れたもの：自分で作ったものなど数百年はあるかな」ともすれば物が多いと雑然としてしまいましたが、坂さんの工房は引き出しの中まできちんと整理され、いかに道具を大切に扱っているかが伝わってきます。そんな工房から生み出される作品は、伝統的なモチーフから自由な発想のデザインまで、幅広いバリエーション。オーダー

メイドの注文も受けており、時には結婚指輪を依頼されることも。「朽ちることのない金属は一生残るもの。その方の人生を共に歩ませていただくと、思うと二つ二つに気持ちが入ります」。

彫金師として腕を磨き続ける

もともと細かい作業が得意だったという坂さんが、彫金に合ったのは短大生の頃。家政科の美術コース在学中に授業で金属加工を体験。夢中で取り組む坂さんを見た教授のアドバイスで、卒業後はジュエリーを学べるデザインの専門学校に進みます。その後には会社勤めをしながら谷中の

工房に通い、技術を学びました。職人として独立した理由は「彫金だけをやっていきたい！」と「思ったから」と至極シンプル。技術向上のため、昨年から本格的に日本画の勉強も始めました。「彫金を始めて25年近くたちますが、まだまだ分からないことがあり。名匠の作品と見比べたら、線一本からして自分のものとはまったく違っていて…。底が知れない世界だからこそ、ここまで夢中になれるのかも」



hot rose

問い合わせ / info@hot-rose.net
HP / https://www.hot-rose.net

取手の元気な女性を紹介！

となりのMatch子^{マチコ}さん

彫金師、ジュエリーアーティスト

坂有利子さん

Vol.6 hot rose主宰



Profile

短大、山脇美術専門学院ジュエリーアート科を経て、谷中彫金工房にて伝統彫金を学び、「英華」の号で独立。2019年第48回伝統工芸日本金工展入選など入選多数。2019年に東京都伝統工芸士に認定。日本彫金会会員。

文房具が大好き！

無類の文房具好きで、つい購入してしまうそう。ボールペンやシャープペンシルなどは常に書き味のよいものを探求しています。最近のヒットはカラーの筆ペン！

バッグの中身を見せてください！



「身軽でいたいので必要最小限の物だけを持ち歩いています！」(坂さん)。お財布は革小物づくりが趣味という旦那さんのお手製。留め具は坂さんが作りました。プリントが目を引くペンケースはつくば市で購入。「なめ猫免許証」が入ったバスケースに坂さんのおちゃめな人柄が表れています。